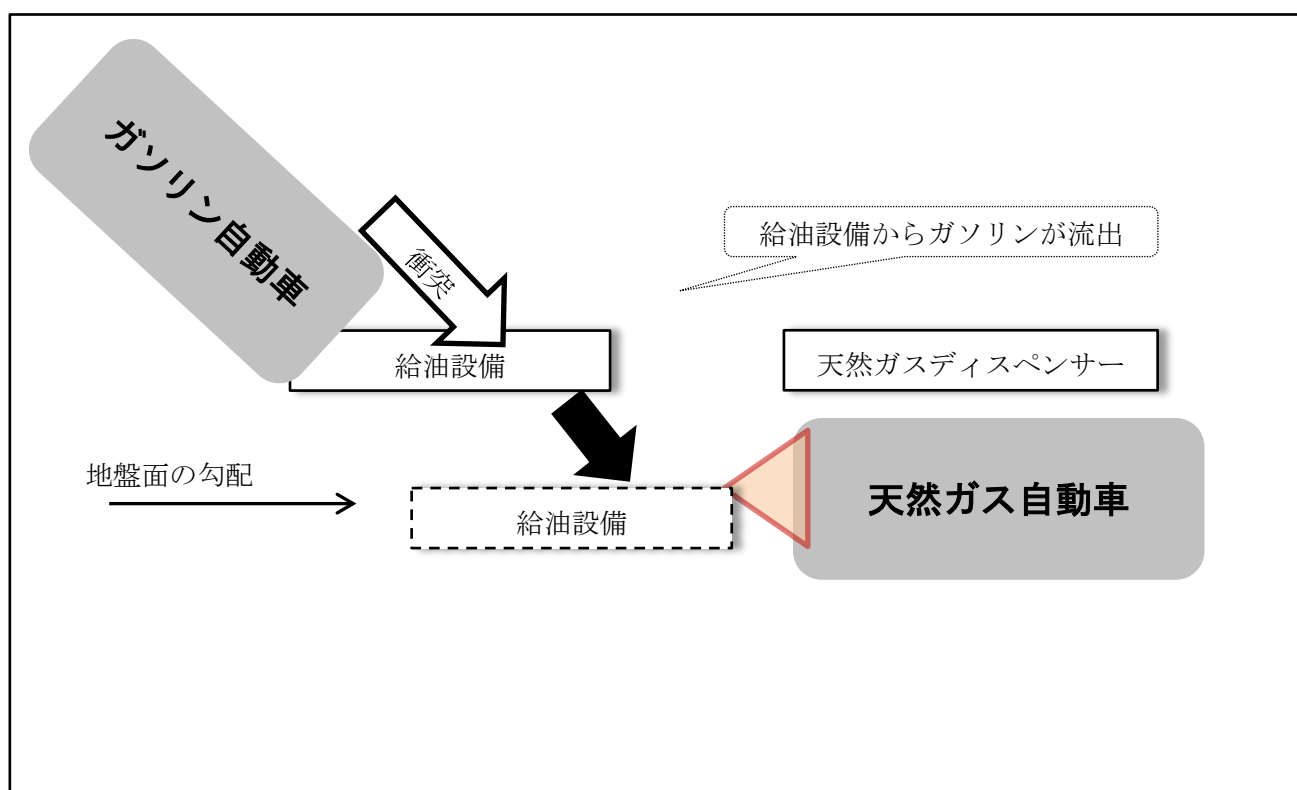


災害パターンの想定・分析について

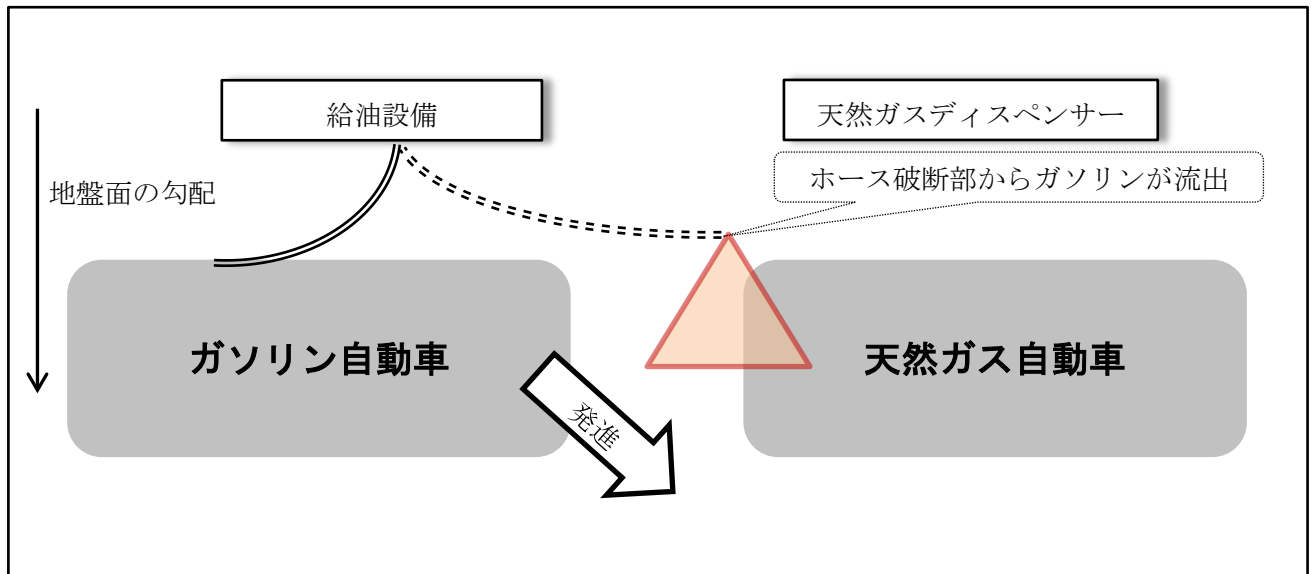
過去の給油取扱所の給油空地における火災及び流出事故の分析、国内外の特徴的な事故事例の調査等を踏まえ、危険性として想定される災害パターンを複数想定し、当該災害パターンにおける具体的な危険性についてケーススタディを行い、安全対策の考え方の方向性を検討する。

想定される事故パターン（例）

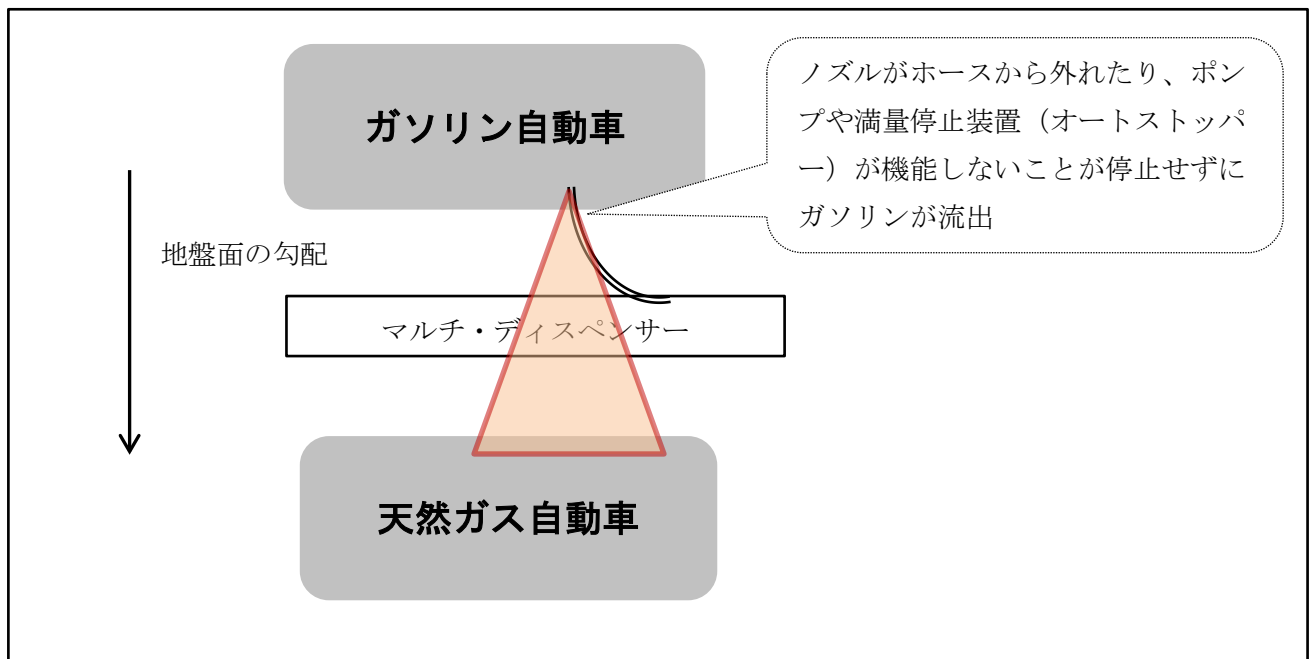
- ① 運転を誤って一体型給油設備に車両が衝突し、反対側に停車中の車両がガソリン火災で炎上する危険性



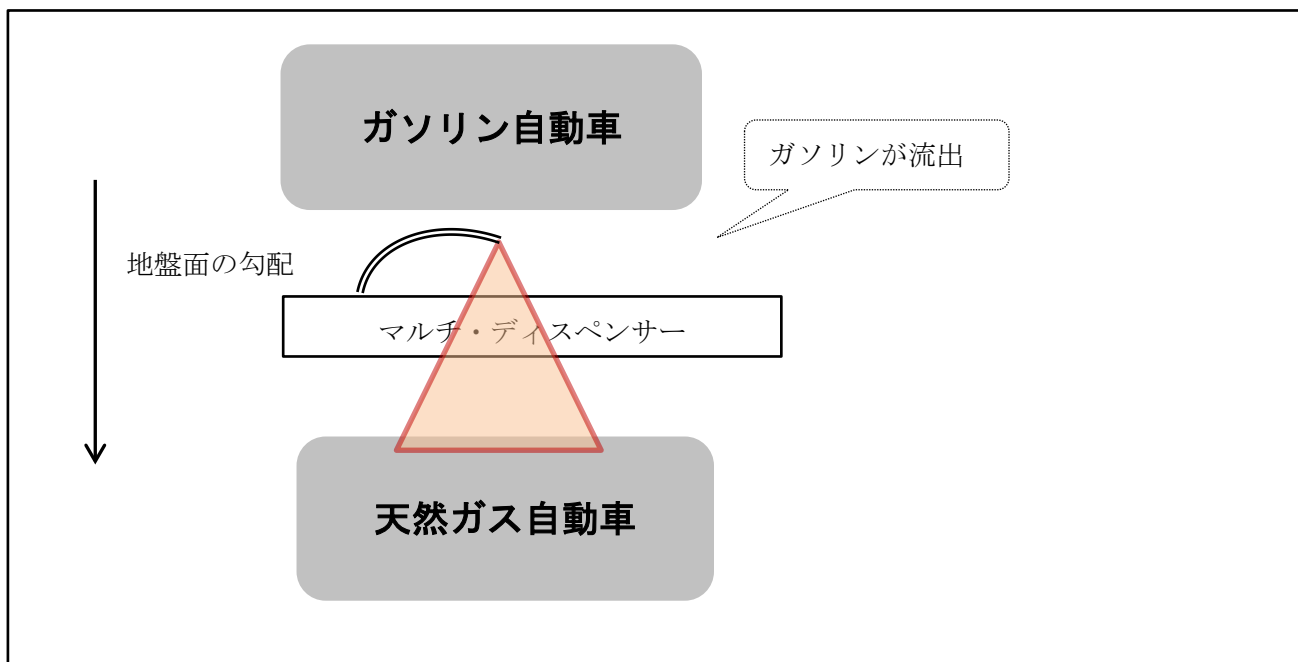
- ② 給油中に車両誤発進によるホースの破断、給油設備の転倒などによりガソリンが流出し、別の車両が炎上する危険性



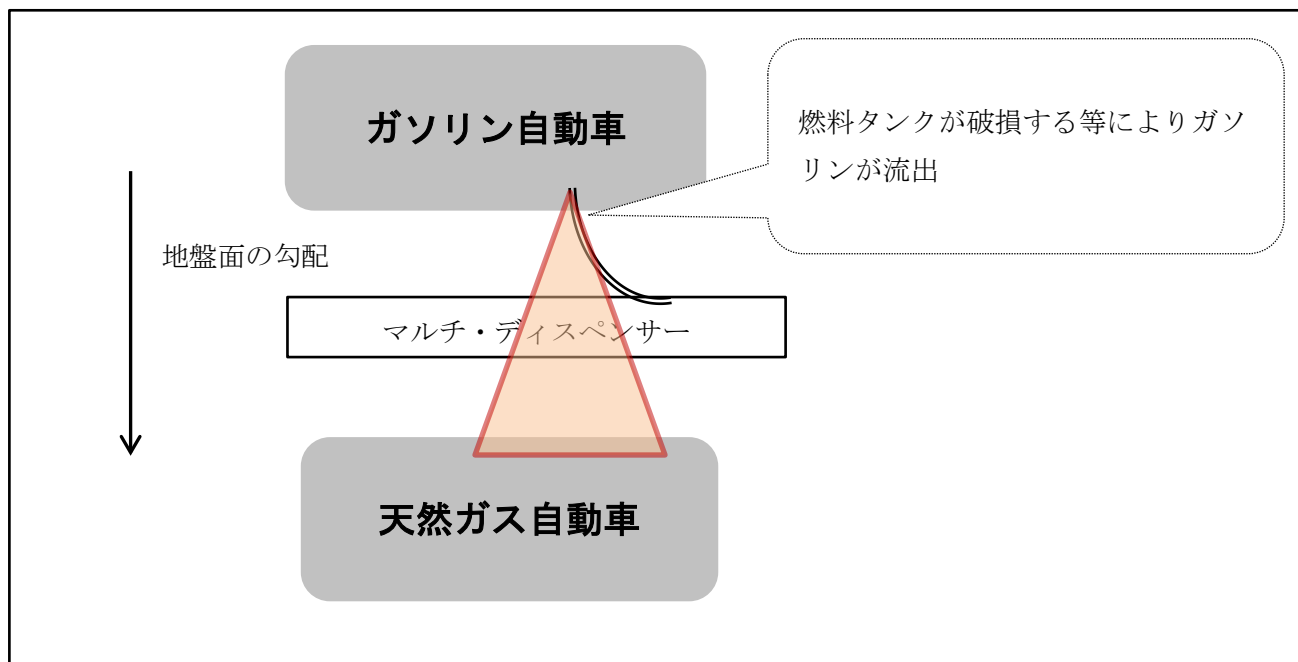
- ③ ノズル、ポンプ等の給油設備の不具合などによりガソリンが流出し、別の車両が炎上する危険性



- ④ 過剰給油等の給油行為者の故意又は過失等によりガソリンが流出し、別の車両がガソリン火災で炎上する危険性



- ⑤ 車両燃料系統の破損などによりガソリンが流出し、別の車両が炎上する危険性



→ その他、想定すべき災害パターンに漏れがないよう検討する必要があることから、全国の消防本部及び関係団体の協力を得て、引き続き抽出・整理を行っていく予定。

この他、消防本部等への意見照会で次のような災害想定上の留意点について提案があった。

- 給油設備等からのガソリンの流出・延焼に伴い、天然ガスディスペンサーに設置してある水系の防消火設備が作動することで、ガソリンが拡散し、延焼拡大する危険性がある。(消火設備の見直し)
- 給油設備及び天然ガス充てん設備の作用領域が重なるため、双方の機器の性能(防爆)に関する再検討が必要となる。(防爆範囲の見直し)
- 従業員等が高圧ガス及び危険物の両方の知識が必要となる。(従業員に必要な知識についての検討) 等